

公益財団法人韓国教育財団

2024年度(令和6年度)事業計画

I 公益目的事業

1 奨学金の支給事業

学業に専念する学生の学費及び生活費の支援を通して奨学金援助を行い、社会に貢献できる人材を育成するのが支給目的である。1966 年開始しから本年度で 58 年目を迎える。

支給対象	人数(23 年度)	1 人当り年間支給額	支給総額	備 考
国内 高校生	20 名(15 名)	(*)100,000 円	2,000,000 円	一般奨学金
国内 大学生	60 名(60 名)	500,000 円	30,000,000 円	一般奨学金
国内 大学院生	6 名(6 名)	1,000,000 円	6,000,000 円	一般奨学金
	3 名(3 名)	1,000,000 円	3,000,000 円	碧峯奨学金
海外 MBA 課程	1 名(1 名)	12,000,000 円	12,000,000 円	碧峯奨学金
合計	90 名(85 名)		53,000,000 円	

* 23 年度奨学金 12 万円を 10 万円へ減額し、選抜人数を拡大(高校授業料無償化関連)

* これにともない奨学金規程にある高校生の支給額を 10 万円へ修正する

2 韓国学の振興

① 韓国語能力試験の管理

駐日本国大韓民国大使館主管の韓国語能力試験を財団がサポートし、その管理業務を担当する。韓国語学習者の増加にともない運営と管理の効率化を図るべく財団 HP を含む管理システムの開発などを進めている。また、受験者の利便性を高める取り組みとして試験会場を拡充。なお、昨年 7 月に実施された TOPIK フォーラムを好評につき本年第 3 回を開催する予定。

2024 年度試験実施予定日

回 数	試験実施日	願書受付期間	会場(昨年度会場数)
第 93 回	04 月 14 日(日)	01 月 06 日～01 月 20 日	東京など 53 会場
第 95 回	07 月 14 日(日)	04 月 22 日～05 月 10 日	東京など 48 会場
第 96 回	10 月 13 日(日)	07 月 08 日～07 月 22 日	東京など 60 会場

【第 3 回 TOPIK FORUM】

開催日：2024 年 6 月 29 日(土)

開催会場：帝塚山学院大学

テーマ：TOPIK で楽しむ K コンテンツ、K コンテンツで伸ばす TOPIK

② 韓国語弁論大会への支援

今年度も継続して、在日本大韓民国民団及び教育院が共催する在日韓国人などの韓国語学習者より自らのテーマを韓国語で発表する弁論大会へ財団は支援金を支出する。

主管： 現在調整中

予定日： 現在調整中

予定場所： オンライン開催

支援額： 700,000 円

③ 在日韓国人教育研究大会の後援

今年度も継続して、在日韓国人及び韓国派遣教員が各々教育に関わる研究を発表する官民後援の研究大会が開催される予定で、財団からは後援金を支出する。

開催日： 2024 年 8 月 19 日(月)～20 日(火)

主管： 京都国際中学高等学校長

支援額： 700,000 円

④ 韓国留学博覧会への支援

韓国留学フェアは、多くの学生や教育機関など関心を持つ人々に参加の機会を提供するため毎年韓国の 60 大学が参加し、近年ではオンラインとオフラインの両方で同時に開催している。

開催日： 2024 年 6 月 8 日(土)～10 日(月)（仙台:6 月 8 日、大阪:6 月 9 日～10 日）

主管： 国立交際教育院、仙台韓国教育院、大阪韓国教育院

支援額： 各 100,000 円、計 200,000 円

⑤ K-POP カバーダンス大会への支援

K-POP は今や単なる流行を越えて、高校、専門学校、大学の正規教科や部活動など、教育課程の一環として制度化されている。この流れに合わせて、K-POP カバーダンスと呼ばれる大会やフェスティバルが幅広く開催され、そのイベントをサポートする。

開催日： 2024 年 8 月 9 日(金)

主管： 神奈川韓国教育院

支援額： 100,000 円

Ⅱ 収益事業

1 不動産賃貸

今年度も継続して、所有する居住用マンションの賃貸収益を奨学金給付の財源の一助とする。

所要の修繕やリフォームも実施して入居率の改善に努めるとともに、賃貸料水準の維持を図り、以って奨学金支給事業の安定的な財源とする。また、収益性の低い物件や修繕や入居者対応など運用困難な地方物件を売却、その資金をもとに関東圏内の物件を購入する。なお、本売買の物件は、詳細が決まり次第、**理事会にて審議**するものとする。

Ⅲ その他の事業

1 財団創立 60 周年記念誌の制作

1963 年在日韓国人教育後援会設立から 60 周年を記念し、財団法人保管及び対外広報用として記念誌を制作する。

2 財団研究本(シンポジウム)の制作

60 周年記念誌とは別として、昨年開催された記念式でのシンポジウム発表内容の補完版を一般向けの在日研究資料として出版する。